

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 発行人 内藤 留 幸
 編集主筆 竹 澤 知 代 志
 印刷所 株式会社きかんし



「教団の教師として宣教を共に担う」新任教師52名+22名

新任教師 オリエンテーション

2010年度

出身神学校等の違いを越えて

6月21〜23日、天城山荘(伊豆市)にて、2010年度新任教師オリエンテーションが開催された。出席者は74名(その内新任教師は52名)であった。主題は「前年度に引き続き「教団の教師として宣教を共に担う」とし、教師委員会としては、このオリエンテーションが、教団における宣教の働きの学びと共に、出身神学校の違い等を越えた新しい出会いと交わりの恵みを味わう機会となることを願って準備にあたった。

公同教会としての教団形成

「1日目のプログラム」
 1日目は、松井睦教師委員長による開会礼拝の後、山北宣久教団総会議長による講演「公同教会としての教団形成に共に励むために」がなされた。
 講演では、明治期の公同主義における合同教会の形成が教団の創世記であると、教団信仰告白に基づいて、教団形成に励むことが話された。
 また、多様性の豊かさというものが相対化によるあいまいさに向かう危険性、および、宣教と伝道、教会形成と現場優先、信仰告白と社会的責任といった二極化の問題等が指摘された。さらに教団の教勢の減少について触れた後、小規模教会への励まし等が語られた。

グローバル化現象と教会

2日目のプログラム

2日目は、佐々木木知夫教団総会議長による講演「教団の教師像」がなされた。
 講演では、教団が30余派の教会が合同してできた教会であり、さまざまな教師像・教師論を内包していること、また、教団における職制の確立においても十分な成長を遂げているとは言い難いこと等を踏まえながら、教憲・教規の規定により説明がなされた。さらに、各個教会における教師の働き(教会と共に育んでいく教師像、説教と聖礼典の執行による仕え人など)および、教団という教会における教師の働き(教団信仰告白に言い表された信仰の守り人、同労のために祈り後進の導き手となる者など)について述べられた。
 自身が教師として実際に経験された事柄などにも触れられたこともあって、新任教師にとって良い励ましとなる講演であった。
 全体での写真撮影の後、内藤留幸教団総幹事による講演「教団の教会的権能・教務・教会・教区・教団の関わり」がなされた。
 内藤総幹事は、教会形成の土台としての正典(聖書)、信条(信仰告白)、秩序(教会法・組織)について紹介した後、教憲が示す「教会のかたち」について、および、公同教会の権能としての神の言葉の説教と聖礼典(洗礼と聖餐)について述べた。また、教団(教

知り合い、交流を深め合う

3日目のプログラム

3日目は小島誠志教師(松山番町教会牧師)による牧会講話が行われた。今回も同教師の牧師としての豊富な経験から、説教作成の苦労話や牧会の失敗談などが率直に語られ、新任教師はどれも大きな励みと励ましを覚える時となった。
 その後、全体のまとめとして、参加した新任教師全員が一言ずつ感想等を述べ、最後に鈴木伸治教団総幹事による開会礼拝をもって全てのプログラムを終えた。
 食事の際など、初めて出会った参加者同士がなごやかに語り合うなど、お互い



「日本伝道地図」それぞれ遣わされている地に立つ新任教師



乗車率15%、立錐の余地がないとまでは言えないが、相当に混んでいる電車、優先席の前。80歳近いと見える婦人が、乗り込んで来た。リュックを背負い左手には大きなバック、右手にはビニール袋2つ。空席は勿論ない。左右合わせれば、若い女性が3人座っていたが、誰も席を譲ろうとはしない。「どなか席を譲っていただけませんか」と声をかけようと思いが、その声が出ない。出掛かったものを何度も飲み込んでしまった。過去の似たような経験が邪魔をする。催促された人は反発する。素直に応ずるような人は、群衆の前で指摘されて、傷つくかも知れない。露骨に歯をむいて噛み付いて来る人もある。う。ほぼ確実に、周囲にいる全ての人が不愉快な思いをする。老婦人は身長140無いかも知れない。ふと、ジブリのアニメに準主役級で登場するお婆さんキヤラを連想した。彼女なら「席を替わってもらおう程度寄りじゃないよ」と啖呵を切るかも知れない。乗り換えた電車、やはり優先席前、若い女性が、携帯電話でメール中、ゲーム中、一人は何と会話中。若い人だに、それぞれ事情も背景もあるだろう。疲れてもいるだろう。しかし電車の中では電車のルールを守らなくては、切符があっても電車に乗る資格はない。

の苦労話や牧会の失敗談などが率直に語られ、新任教師はどれも大きな励みと励ましを覚える時となった。
 その後、全体のまとめとして、参加した新任教師全員が一言ずつ感想等を述べ、最後に鈴木伸治教団総幹事による開会礼拝をもって全てのプログラムを終えた。
 食事の際など、初めて出会った参加者同士がなごやかに語り合うなど、お互い

伝道のともしび

美しい礼拝堂と美しい心遣い

宇佐美教会牧師 畠澤かおり

童謡「みかんの花さく丘」は、静岡県伊東市宇佐美の車窓から作られた歌であると言われています。その宇佐美にある教会の庭にも、みかんの花が咲いています。私はこの宇佐美教会に夫と共に赴任してまだ1年を過ぎたばかりですが、宇佐美教会がこの地に教会を創立したのは1931年のことになりました。およそ79年近く伝道のともしびを燃やし続けてきた教会であります。代々の牧師、信徒の尊い伝道の働きがあつて、今日までこの地に主イエス・キリストの福音が響き伝え続けられてきたに教会しておられた大森清一牧師よりお手紙を頂き、宇佐美教会の素敵な特徴が明らかとなりました。まず、礼拝堂に入ると驚くのは、その美しさです。百合の花のステンドグラスが正面にあり、天に飾られた模様や木の天幕が降りているような不思議な造りの礼拝堂。そこにもすごい技術が込められているのは、江戸時代から18代目の大工さん一家が朝8時から夜9時まで働いて下さった故であることが分かりました。そして、同じように説教台も手作りで、ケヤキの根がそのまま用いられ、塗料が10回以上も丁寧に塗られたそうです。また、聖餐卓は樹齢3百年の一枚板より作られていることでも、また驚かされました。本当に御言葉と聖餐を中心とする教会を立てようとしていたのだと心引き締まる思いで、用いさせて頂いておられます。

次にびっくりしたのは大量の布団です。ちゃんと布団をしまつ部屋があり、そこに収まっているのですが、夏になるとこの布団が活躍します。夏期学校のお泊まり、それだけではありません。都会の教会の夏期学校を受け入れるために考えて作られた布団部屋だったので、最近では、都会にある他の団体からの宿泊やご家族での宿泊も受け入れていますが、そのために教会員みんなで布団干しをし、折って迎える姿はこの教会ならではの事だと思えます。また、宇佐美教会は徒歩2分くらいで海水浴場ということもあり、夏期学校で海水浴をすることも考えてシャワー室も作られています。これからも多くの方々に用いられ、祈り、祈られる関係を築いていくことができればと願っています。

最後に昔から続けられていることとして、トラクト配りがあります。今は第5主日の礼拝後に、毎回300枚の教会案内を教会員皆で手分けして配っています。すぐに反応があるわけではありませんが、「ここに教会がある」と地域の方々が知ることができるよう、そして、神様の御招きがあるようにと祈りつつトラクト配りを継続してゆきたいと思えます。「わたしを遣わしてください」(イザヤ書6章8節)の年間標語のもと、一人ひとり主の証人として遣わされていく教会でありたいと願っています。お祈り下さい！

たことを感謝いたします。現在、現住陪餐会員22名となり、一人一人が豊かな賜物を用いて教会の働きに仕えて下さっておりま

す。宇佐美教会に赴任して、いろいろと驚いたことや、感動したことがあり、それが、宇佐美教会の特徴とも言えると思えます。それは、美しい礼拝堂、説教台と聖餐卓、30組の布団、シャワー室、トラクト配りです。この教会の建築時



躍ります。夏期学校のお泊まり、それだけではありません。都会の教会の夏期学校



写真上、中列左から3番目が著者、一人おいて畠澤美雄牧師

「能登半島支援募金終了 感謝のお知らせ」

2総会期にわたってお願ひしてまいりました「能登半島地震被災教会会堂等再建支援募金」は、2010年7月末をもって終了しました。被災教会にお約束していた委員 長山信夫

「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会 委員長 長山信夫

「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会 委員長 長山信夫



富来伝道所献堂式、09年3月17日

◆公募◆

第36回キリスト教系宗教法人のための 法人事務・会計実務研修会

- ◎期 間 2010年10月12日(火)～14日(木)
- ◎会 場 富士箱根ランド(静岡県田方郡函南町桑原苗場1354)
- ◎主 催 日本キリスト教連合会
- ◎内 容 法人実務クラス、会計事務コース、パソコン会計導入コースの3クラスに別れ、キリスト教系宗教法人のための実務を学ぶ。
- ◎講 師 キリスト教系宗教法人の各分野に携わる専門家。
- ◎参加費用 参加費/3万3千円(3～4人で1部屋、個室希望者は、1日5千250円の追加料金)。
- ◎問合せ 総幹事室(03-3207-8768)
- ◎応募締切 9月3日(金)

ひととき

柳川 久さん

ブログ「独居Q 翁つぶやき」を立ち上げ



1928年生まれ。土浦教会員。

両親、兄弟がクリスチャンで、キリスト教が身近にある中で育まれた。終戦後、母親が教会の牧師の生活を支えるために、毎晩食事を運んでいたことを覚えている。しかし、自らが教会に通うことはなかった。土宮学校に通っている最中に終戦を迎え、帰省、爆撃によって母親は重傷を負い、家族は離散。野戦病院のような場所で苦しみながら人々が死んでいく状況を目の当たりにする。アメリカの行為にショックを受けると共に、救えないとの思いを抱いた。その体験が引掛かって、教会に行くことは頑なに拒み続け、母親にも反発した。理解しない自分、今は亡き母も悩んでいたであろうと振り返る。

そんな久さんが、受洗したのは、2008年イースター。2年5カ月わたる妻の闘病生活を支えた後であった。看病する間、妻のために、自分の健康が支えられるようにと自然と祈りが溢れた。妻は安らかに世を去り、最後を看取することも出来た。しかし、妻を失った直後から、虚脱感に襲われ、独居生活に入る。そのような中、両親の信仰を思い起こし、教会に通うようになった。御言葉の真理を知らされ、信仰を与えられた。独居生活の孤独は、神と共におられる」との恵みのみが癒す。母が教会だけを生き甲斐として晩年を過ごしたのと同じ道を自らも歩んでいる。すべてが神の恵みに与ったのである。聖餐式に招かれる姿勢を教えられたのであった。その時以来、聖餐式の厳粛な意味、恵みをいただく姿勢を示しながら聖餐式に臨んでいる。

1つしかないパンを、聖餐に与っている会衆はじつと見つめていた。その時、牧師は奏楽者には配餐されていることを確認し、小さな1つのパンを3つに分けた。そして、さらに小さくなったパンを掲げながら、会衆に恵みの御体をいただくよう示したのである。感謝があふれたと配餐の役員。

(教団書記 鈴木伸治)

「1つのパンを 見つめつつ」

聖餐式でパンの配餐が行われた。配餐する2人の役員が司式者のもとに戻ってきた。2つの盆には1つのパンしかなかった。この教会では、配餐してから一同共にいただくことになっている。従って、まだ主の御体を手に入れているのは2人の役員と司式者である。教会によっては配餐されたら、すぐに各自がいただくところがある。また、恵みの座に額ずいて、グループごとにいただく場合もある。いずれにしても主の聖餐をいただくとき、主の御体として喜びと感謝を持っていたら、